

2024年 国公立大入試 「選抜要項」分析

「総合型＋推薦型」が10年連続拡大。募集人員の割合は23.0%に！

旺文社 教育情報センター 2023年10月18日

文部科学省はこのほど、『令和6年度 国公立大学入学者選抜の概要』を公表した。本稿では国公立大入試の募集の概況、各選抜に関する過年度からの推移数値などを示す。

※本稿のデータは特記のない場合は、『国公立大学入学者選抜の概要』（文部科学省）に基づく（各年7月末現在、各大学の選抜要項の集計。専門職大学を含む。7月末時点での設置認可申請中等の予定を含む〔新設予定大学を除く〕。外国人留学生対象の選抜は募集人員に含まない）。

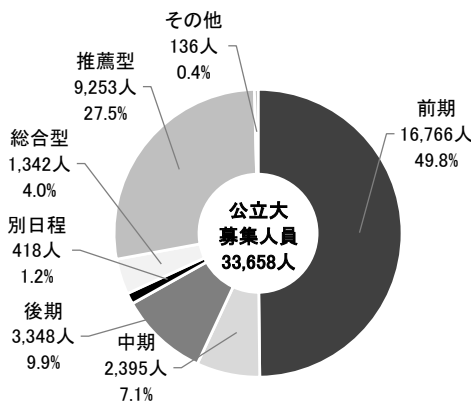
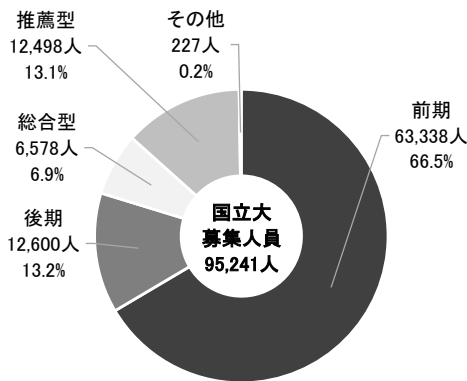
■2024年 国公立大入試の募集に関する概況

Point

- ◆国公立大の募集人員は増加。公立大の大学・学部増に加えて、国立大でも地方創生や高度情報専門人材の確保を目的として定員が増加。
- ◆募集のメインは一般選抜ではあるものの、その募集人員が全体に占める割合は低下。
- ◆かわって総合型選抜・学校推薦型選抜が拡大。
- ◆「総合型＋推薦型」の募集人員が全体に占める割合は、10年連続で上昇。2024年入試では23.0%に。

[図表1] 2024年入試 国公立大 入試方式別の募集人員と割合

※「その他」は帰国生徒選抜、社会人選抜など。



[選抜 実施大学・学部]

- ・国立大 82 大学 404 学部 (+1 学部)
- ・公立大 97 大学 221 学部 (+1 大学、+8 学部)

[募集人員合計の増減]

- ・国立大 +194 人 (+0.2%) / 公立大 +523 人 (+1.6%)

[一般選抜の募集人員の増減]

- ・国立大 前期 ▲152 人 (▲0.2%)、後期 ▲66 人 (▲0.5%)

- ・公立大 前期 +211 人 (+1.3%)、中期 ▲25 人 (▲1.0%)、後期 ▲40 人 (▲1.2%)、別日程 ±0 人 (-)

[総合型選抜の募集人員の増減]

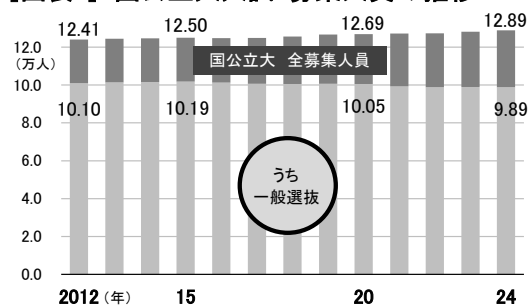
- ・国立大 +175 人 (+2.7%) / 公立大 +77 人 (+6.1%)

[学校推薦型選抜の募集人員の増減]

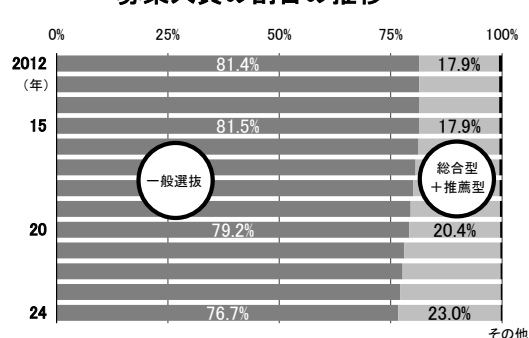
- ・国立大 +260 人 (+2.1%) / 公立大 +304 人 (+3.4%)

※増減は対前年の数値。▲は減。

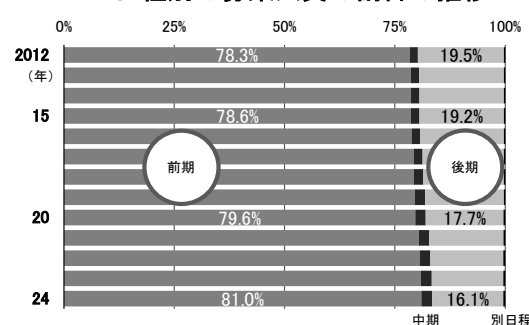
[図表2] 国公立大入試 募集人員の推移



[図表3] 国公立大入試 入試方式別の募集人員の割合の推移



[図表4] 国公立大入試 一般選抜 日程別の募集人員の割合の推移



[図表5] 2024年 公立大入試 一般選抜 中期日程・別日程の実施大学

公立大 中期日程 実施大学		公立大 別日程 実施大学
旭川市立大学	公立小松大学	奈良県立大学
釧路公立大学	都留文科大学	岡山県立大学
公立千歳科学技術大学	公立諏訪東京理科大学	新見公立大学
岩手県立大学	長野大学	山陽小野田市立山口東京理科大学
秋田公立美術大学	長野県看護大学	下関市立大学
高崎経済大学	長野県立大学	周南公立大学
前橋工科大学	岐阜薬科大学	
三条市立大学	静岡県立大学	
長岡造形大学	名古屋市立大学	
金沢美術工芸大学	大阪公立大学	
	兵庫県立大学	

- ◎全体の募集人員は増加傾向。2024年は2012年と比べて、0.48万人増(図表2)。要因は2つ。公立大の増加と、国立大の定員増。公立大は2012年以降に20大学新設(うち1校は既設2校の統合)。国立大は地方創生を狙いとする定員増が2023年から、高度情報専門人材の確保を狙いとする定員増が2024年から実施。
- ◎一般選抜の募集人員は減少傾向(図表2)。2021年から、10万人を割り込んだ。全体の募集人員が増加するなか、一般選抜の募集人員は減少しているため、全体に占めるその割合も低下。2024年は76.7%に。依然高率だが、2015年以降、低下が続く(図表3)。
- ◎「総合型+推薦型」は、2015年以降、10年連続で募集人員増が続く。全体に占める募集人員の割合も、2015年以降10年連続上昇。2024年は、対前年+0.5ポイントの23.0%で過去最高(図表3)。
- ◎一般選抜のなかでは、後期日程の募集人員の割合が低下(図表4)。
- ◎公立大のみの中期日程。かつて12大学で実施されていたが、2013年新設の秋田公立美術大が実施以降、その数が増加。また、公立大では別日程で一般選抜を行う大学もある(図表5)。

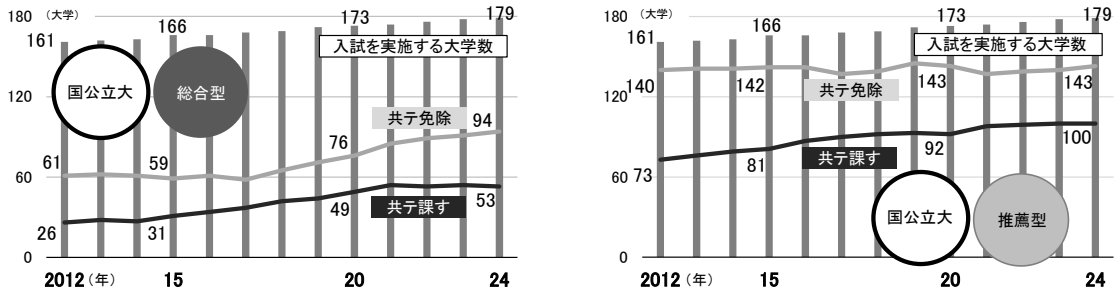
■2024年 国公立大入試 総合型選抜・学校推薦型選抜の実施概況

◎総合型・推薦型の実施大学は、直近5年ほどを見ると、総合型と、共テを課す推薦型が増加傾向。2024年入試を実施する179大学に対する実施率は、総合型[共テ課す]29.6%、同[共テ免除]52.5%、推薦型[共テ課す]55.9%、同[共テ免除]79.9% (図表6)。

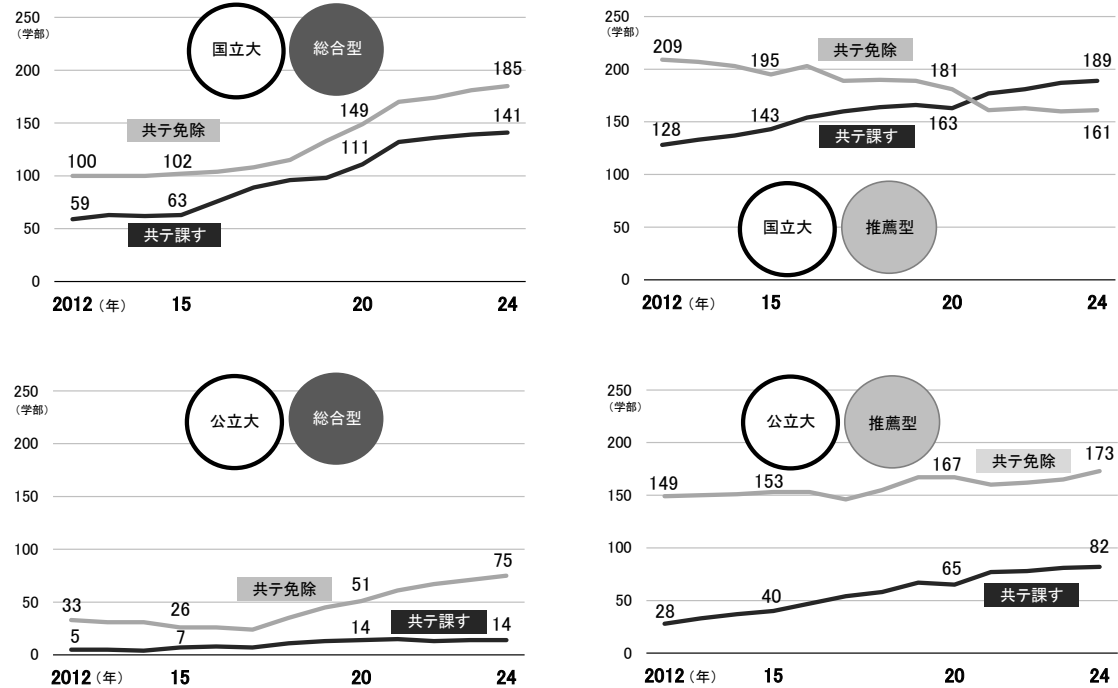
※参考:国公立大で総合型・推薦型のいずれも全学で実施していないのは、東京藝術大と京都市立芸術大の2大学。

◎国立大は総合型・推薦型ともに実施学部数は同程度。公立大は推薦型の実施が主 (図表7)。

【図表6】国公立大 総合型・学校推薦型選抜の実施「大学数」の推移



【図表7】国公立大 総合型・学校推薦型選抜の実施「学部数」の推移



◇総合型・推薦型の実施大学・学部数 ※()は対前年の増減。▲は減。

【総合型】

・共テ課す

国立大 44 大学 141 学部 (+2 学部)

公立大 9 大学 14 学部 (▲1 大学)

・共テ免除

国立大 57 大学 185 学部 (+2 大学、+4 学部)

公立大 37 大学 75 学部 (+1 大学、+4 学部)

【推薦型】

・共テ課す

国立大 61 大学 189 学部 (▲1 大学、+2 学部)

公立大 39 大学 82 学部 (+1 大学、+1 学部)

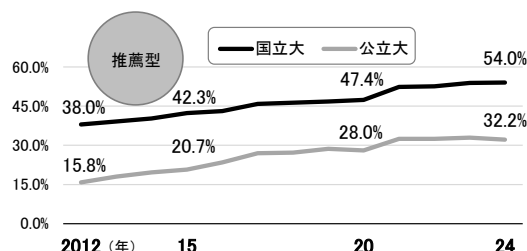
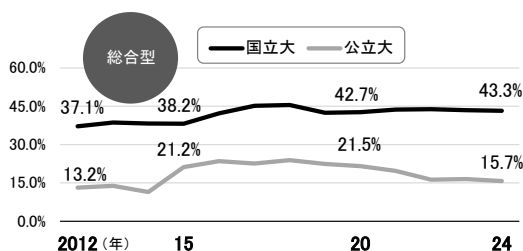
・共テ免除

国立大 60 大学 161 学部 (+2 大学、+1 学部)

公立大 83 大学 173 学部 (+1 大学、+8 学部)

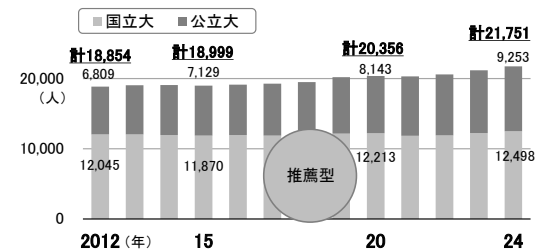
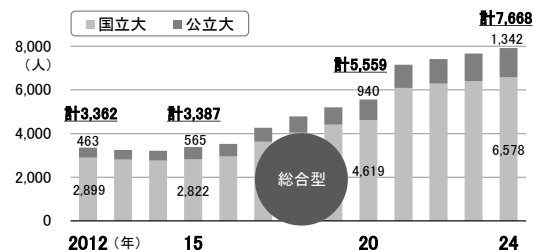
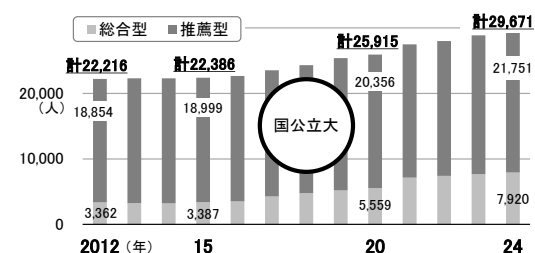
【図表8】 国公立大 総合型・学校推薦型選抜 共テを課す割合の推移

※各選抜実施学部数の計に占める割合



【図表9】 国公立大 総合型・学校推薦型選抜 募集人員の推移

※下段の総合型と推薦型のグラフは縦軸の数値が異なることに留意。



◎総合型・推薦型では、まだ、全般的には共テ免除での実施が主。ただし、国立大の推薦型では、共テを課すほうが多い（図表7・8）。2024年の「総合型+推薦型」の募集人員は、2015年と比べて+7,285人。国立大の総合型の募集人員増（+3,756人）が顕著（図表9）。

■多様な背景を持った者を対象とする選抜 ⇒ 女子枠が増加

◎『国公立大学入学者選抜の概要』では昨年より、「多様な背景を持った者を対象とする選抜」の実施大学・学部が一覧表にまとめられており、理工系での女子枠を設けている大学も示されている（図表10）。
(2023.10 加納)

※『大学入学者選抜実施要項』（文科省）では、多様な背景を持った者を対象とする選抜の対象者として、「家庭環境、居住地域、国籍、性別等で進学機会の確保に困難があると認められる者」「入学者の多様性確保の観点から対象になると考える者（例：理工系分野の女子等）」と示している。

【図表10】 2024年 国公立大入試 女子枠のある大学

2024年入試で新規実施	大学名	入試方式	2024年入試で新規実施	大学名	入試方式
◎	北見工業大	総合型	◎	島根大	推薦型
◎	電気通信大	推薦型	◎	熊本大	推薦型
◎	東京工業大	総合型、推薦型	◎	大分大	推薦型
◎	富山大	推薦型	◎	琉球大	総合型、推薦型
◎	金沢大	総合型	◎	兵庫県立大	推薦型
◎	山梨大	推薦型	◎	山陽小野田市立山口東京理科大	推薦型
	名古屋大	推薦型	◎	高知工大	推薦型
	名古屋工業大	推薦型			

※山陽小野田市立山口東京理科大は、募集要項による。